

第 3 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要点

日時：平成 28 年 6 月 10 日（金）18：00～20：00

場所：日野市役所 504 会議室

策定までのスケジュールに関する意見

・イベントについて

要点	・浅川アユまつり以外で地域戦略をアピールするイベントは検討していないのか。
対応方針	浅川アユまつり以外でイベントを実施するかは、今後の市民参画部会で話し合いの場を設ける。浅川アユまつりでは、市民の求めるイベントについてアンケートを実施しており、その内容は参考資料 3 に示している。今後のイベントについては、アンケートで得られた意見を踏まえて、市民参画部会で話し合いを行う。

平成 27 年度生物多様性基礎調査の結果報告に関する意見

・課題について

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の視点では日野市の河原は大事なポイントである。環境特性のわかる方法でクローズアップする必要がある。 ・河川のハリエンジュ対策が課題として挙げられているが、ハリエンジュを伐るだけでは今の生態系が破壊されることにつながる。伐る場合でも、そこに生息する生きものを一時的に避難させるなど保全措置を考える必要がある。 ・シナダレスズメガヤといった、特定外来生物に指定されていない外来種の対策についても今後検討したい。 ・タヌキ、ハクビシンの生息範囲はもっと広く、果樹園にも現れる。こういった有害鳥獣の対策はどうするのか。
対応方針	課題をどのように解決するかは、施策検討段階の委員会（平成 29 年度）で検討を実施していく。地域戦略の課題として挙げられる事柄は、市として対策を実行していく。

・種名について

要点	・確認種で挙げられているトビナナフシは総称であり、種名ではないのでは。
対応方針	トビナナフシは総称として使用されることもあるが、昆虫類の種名は「日本産野生生物目録（無脊椎動物編Ⅱ）」（環境庁 1995）に準拠しており、ニホントビナナフシはトビナナフシと表記される。そのため問題はなかった。

日野市生物多様性地域戦略 基本方針の検討

・予算について

要点	・地域戦略は最終的に行動計画ができあがるが、その予算はどうなるのか。市の予算で行動計画を実施していくということか。
対応方針	行動計画には施策が伴うので、施策については市が責任をもって予算をとり実行に移す。ただし、地域戦略の場合は市が単独で実施する計画ではなく、市に関わる事業者や市民とともに実行していくものであるため、市で担う部分は市の予算で実施するが、市民や事業者の目標については市民や事業者の協力を求めることになる。

・基本方針の考え方について

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画の方針に地域戦略を当てはめて考える必要は無い。基本方針は生物多様性の現状や市民のニーズで組み立て、生物多様性から何が考えられるのかを示した方が良い。第5次日野市基本計画・基本構想では「水とみどりのまち」が基本理念に挙げられているので、この部分を強調して検討を進めても良いのでは。 ・第5次日野市基本計画・基本構想の基本理念は、地域戦略と並列になる必要はないと考える。「水とみどりのまち」がベースにあり、その中に市民とのつながりや持続可能性が含まれた方が、内容が重複せずにまとまるのではないかな。 ・考え方については、自然環境調査から得られた意見と市民参画部会のワークショップから得られた意見を全てばらしてしまっ、再度組み立てた方が良いものになるのでは。 ・日野市は地形が重要である。地形がベースになって日野市の生物多様性は生まれているので、そこをクローズアップした基本方針のキーワードが欲しい。市民が主役や、つなげることも大切であるが、何を大切にしたいかという視点も見えるようにしたい。 ・日野市は東京都の中で丘陵地と台地と低地の3つの地形がある唯一の自治体である。環境の基盤がしっかりしているので、そこを見据えて多様性を考えることが重要である。 ・市民の関心を高めて、市民が参画することは重要であるので、その部分も基本方針にいれていただきたい。
対応方針	基本方針は委員会で得られた意見を踏まえて再検討を実施した。第5次日野市基本計画・基本構想に記載されている「水とみどりのまち」をベースとし、現地調査で得られた課題、市民参画部会のワークショップで得られた課題、委員会で得られた意見を再整理し、基本方針の検討を行った。検討内容については資料 5で説明を行う。

・基本方針にとって重要なポイントについて

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・河川は生息環境を奪われた生きものの逃げ場になっている。 ・日野市で大切な動物は川にいる。その点では日野市の地域戦略は多摩川や浅川をどうするか検討しなければいけない。河川管理者へ意見の言える仕組みが重要である。多摩動物公園についても、動物園があることで周囲にアナグマがたくさんいる。多摩平団地のモミ林は武蔵野台地で唯一の大きなモミ林である。 ・日野市には多摩川、浅川から取水している用水路が 120km ある。そこには独自の生態系ができている場所が多く、市でも生物調査を続けている重要な場所である。多摩川、浅川に加えて用水路も日野市にとって大切な環境である。 ・台地の湧水と丘陵地の湧水は由来の違う別物であるため、生息する生きものも違っている。
対応方針	<p>ご指摘いただいた内容や、その他の日野市の生物多様性を考える上で重要な事柄を整理し、「日野市の生物多様性の概要について」として取りまとめた。その内容については資料 3 で説明を行う。</p>

・今後の勉強会について

要点	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の現状を理解している市職員が少ない。多摩川にどのような生きものが出て、河川がどのような状況なのか。まずは行政側にも多摩川の現状を理解してほしい。平成 27 年度の委員会議事録には、市として今後、学生や市職員を交えて勉強会を開催したい旨が記載されている。行政側が勉強会で日野の自然を知ること、委員会の場での議論も深まるのではないかな。
対応方針	<p>多摩川をはじめ日野市の生物多様性の理解については、市の職員はもとより市民の方々への普及を目的として市民参画部会で活動を実施する。市民参画部会では具体的な見学会や勉強会の検討を今後進めていく。</p>